

# 「貧困」と「世界でがんばる日本人」

下川 雅史

SHIMOGAWA MASASHI

大牟田市立歴木中学校（福岡県）

担当教科：理科

●実践教科：学級活動、道徳  
総合的な学習の時間

●時間数：12時間

●対象学年：中学1年生

●対象人数：111名

## カリキュラム

### ■実践の目的

大牟田市の小中学校は、現在ユネスコスクールに加盟登録申請し、わたしたちと世界中の人々、将来の世代の人々が生き続けることができる未来（持続可能な社会）をどうつくっていくかを、みんなで調べたり、考えたり、意見を出し合ったりしながら実際に行動していける人になるための学習（持続発展教育【ESD】）に取り組んでいます。

持続発展教育（ESD）では、子どもたちの暮らしと地域や国・世界とのつながりが見える教材、子どもたちの内面や行動に変化・変容を引き起こす教材、子どもたちが学ぶ意味や意欲を持てるような教材を開発する必要があります。これらの教材を通して、子どもたちとひと・もの・こと・お金のつながりや関わり、子どもたちの現在と過去・未来のつながりや対話、ここにいる子どもたちと異なる地域・場所のつながりや違いを学んでいきます。そして、これらの学習を通して、次のような能力を育てていくことをねらいとしています。

- ① 体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的・総合的なものの見方）
- ② 持続可能な発展に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重）を見出す力
- ③ 代替案の思考力（批判力）
- ④ 情報収集・分析能力
- ⑤ コミュニケーション能力・総合表現力
- ⑥ ネットワーク・ボランティア実践力

そこで、今回、フィリピンでの教師海外研修で学んだことを中心に、開発途上国に共通する問題「貧困」をテーマに、普段の生活で使う身の回りのものと貧困のつながり、その貧困が生まれるしくみについて学習を組み立てました。また、貧困を改善していくために活動している様々な団体（国連・JICA・NGO）の取り組みと貧困の問題に携わる人々の思いや生き方についてふれる場面も設定しました。最後に、「貧困」をなくすために、自分にできること、大人になった自分にできること、もし自分が世界大統領だったらできることを考えさせました。

これらの学習を通して、開発途上国の「貧困」の問題を理解するとともに、世界でがんばる日本人の活動から、今の日本の姿や自らの生き方について考え、さらには、経済援助のあり方、世界の国々との関係の持ち方、将来の自分の生き方について考えることができるようにしたいと思います。そして、自分たちの暮らしと世界のつながりを理解し、大きな視野をもって社会に参画する人物を育成し

ていきたいと思いをします。

## ■ 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【1時限】</b></p> <p>テーマ： 世界がもし37人の村だったら</p> <p>ねらい： 世界の環境・社会・文化・偏った富の分配状況を知り、問題意識を持つことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図を見ながら、世界や国際社会に関するクイズをする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①世界の人口</li> <li>②世界の国の数</li> </ul> </li> <li>・世界をクラス37名に縮小した一つの村と考え、役割カードにしたがって動き、その立場になった時の気持ちを発表する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①「世界の言葉で『こんにちは』」</li> <li>②「世界の富は誰が持っているの？」</li> </ul> </li> <li>・「貧しき途上国の仲間より」を読み、貧困問題と自分のつながりを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割カード</li> <li>・水とコップ</li> <li>・世界地図</li> <li>・プロジェクター</li> <li>・パソコン</li> <li>・プレゼンテーション「100人村だったら」</li> <li>・資料「貧しき途上国の仲間より」</li> <li>・ワークシート①</li> </ul>
<p><b>【2時限】</b></p> <p>テーマ： 識字学級</p> <p>ねらい： 文字が読めないことでどんな不便さがあるか体験するとともに、字を読み書きすることの意味を問うことで「学び」の意義を考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・識字学級で、北代色さんが書いた手紙「夕やけがうつくしい」を題材に以下のことを考える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①文字の読み書きができないと、日常生活の中でどんなことに困るか、どんな感じを受けるか。</li> <li>②なぜ、文字を覚えることができたのか。</li> <li>③なぜ、夕やけを美しいと感じたのか。</li> <li>④北代さんの生き方から学んだこと。</li> </ul> </li> <li>・「学び」の意味について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北代色さんの手紙「夕やけがうつくしい」</li> <li>・ネパール語の水・薬・毒のラベル</li> <li>・ワークシート②</li> </ul>
<p><b>【3時限】</b></p> <p>テーマ： フィリピンのパヤタスの子ども</p> <p>ねらい： ビデオや写真を通して、自分たちとフィリピンのゴミ山でくらす子ども達の生活や意識の違いに気づかせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピンのイメージを発表する。</li> <li>・フィリピンクイズに答える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①場所</li> <li>②大きさ</li> <li>③人口</li> </ul> </li> <li>・フォトランゲージ、ビデオランゲージで気づいたことを発表する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①フィリピンの学校と日本の学校の違い</li> <li>②大切なものと将来の夢の違い</li> </ul> </li> <li>・パヤタスの子の話から感じたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション「パヤタスの子ども」</li> <li>・パヤタスの学校の教室の写真と授業の様子のビデオ</li> <li>・パヤタスの子どものインタビュービデオ</li> <li>・ワークシート③</li> </ul>

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【4時限】</b></p> <p>テーマ： チョコレートCMから見える世界の裏側</p> <p>ねらい： チョコレートを買おうとガーナの子ども達に売り上げの一部が寄付されるチョコレートのCMから、その裏側にある児童労働とフェアトレード商品について考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのチョコレート商品の写真を見て、買いたい順番に並べる。</li> <li>・チョコレートを買おうとガーナの子ども達に売り上げの一部が寄付されるコマーシャルを見て感じたこと、なぜこの活動を行っているかを考える。</li> <li>・CMを見たあと、再度買いたい順番を並べる。</li> <li>・カカオ農園の児童労働、カカオの真実のビデオを見て感じたこと、自分ができることを考える。</li> <li>・諸外国のフェアトレード商品や児童労働で作られたチョコレートの不買運動の取り組みから、CMの商品や他の商品について再度考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョコレートの写真</li> <li>・チョコレートCM</li> <li>・「世界がもし100人の村だったら～カカオ農園で働く子ども～」のビデオ</li> <li>・「あいのり～カカオの真実～」のビデオ</li> <li>・「幸せのチョコレート」の紹介ビデオ</li> <li>・ワークシート④</li> </ul>
<p><b>【5時限】</b></p> <p>テーマ： 貧困とは？ 貧困の原因とは？</p> <p>ねらい： 貧困の派生図と物語作りを通して、貧困から派生する状況に気づき、貧困の背景にある原因について考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困から想像できる状況の派生図をつくることで、一つの困難が新しい困難を生み出し、それぞれが複雑につながり、貧困の生活から抜け出すことが難しくなっていることに気づく。</li> <li>・資料「バナナのお話」を読み、フィリピンの貧困と日本のつながりを知る。</li> <li>・ジョーベン君の生活の背景にある貧困の原因を考え、物語をつくり発表し合うことで、貧困の背景には、様々な原因があることに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パヤタスの子どもジョンベン君の写真</li> <li>・資料「バナナのお話」</li> <li>・ワークシート⑤</li> </ul>
<p><b>【6時限】</b></p> <p>テーマ： なぜ、日本は、借金大国なのに海外支援をするの？</p> <p>ねらい： 国際協力活動は、互いのメリットにつながり、必要であるという認識を持つことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は借金大国なのに、1年間に6000億円以上の海外支援に使うことに、賛成か反対か考え、その理由について発表する。</li> <li>・日本は借金大国にもかかわらず、海外支援を続けるのは、なぜかについて考える。</li> <li>・「池上彰の学べるニュース～日本のODA～」のビデオを見て、わかったことをまとめる。</li> <li>・再度、賛成・反対の立場を明らかにして、その理由を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「池上彰の学べるニュース～日本のODA～」のビデオ</li> <li>・ワークシート⑥</li> </ul>

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【7時限】</b></p> <p>テーマ： 貧困の輪を断ち切る方法を考えよう</p> <p>ねらい： 貧困の原因と原因が繋がっていて、悪循環を生み出していることに気づき、悪循環（貧困の輪）を断ち切る方法を考えることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「貧困」を出発点に、7枚の貧困カードを並べ、悪循環（貧困の輪）に気づく。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校に行けない</li> <li>②能力や技術が身につかない</li> <li>③栄養不良になる</li> <li>④仕事が見つからない</li> <li>⑤健康を損なう</li> <li>⑥収入が足りない</li> <li>⑦栄養がとれない</li> </ul> </li> <li>・自分が貧困の輪にいたら、自分ひとりの力で、その悪循環から抜け出せるか考える。抜け出す方法、または、抜け出せない理由を発表する。</li> <li>・貧困の輪を断ち切る方法を個人で考えた後、班で意見をまとめ、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困カード</li> <li>・ホワイトボード</li> <li>・水性ペン</li> <li>・ワークシート⑦</li> </ul>
<p><b>【8時限】</b></p> <p>テーマ： いろいろな国際協力する団体について学ぼう</p> <p>ねらい： いろいろな国際協力団体の活動について具体的に知るとともに、資金援助・ボランティアなど自分にもできる活動があることに気づかせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困の問題、児童労働の問題に取り組む主な機関や団体に国連や JICA、NGO などがあり、それらの活動を知り、自分が現在・将来において関われることを考える。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①「世界一受けたい授業～児童労働と ILO～」のビデオから ILO の活動を知る。</li> <li>②ユニセフのパンフレットから、ユニセフの活動と歴木中の生徒会の取り組みを考える。</li> <li>③JICA のパンフレットより、青年海外協力隊とシニアボランティアの活動を知る。</li> <li>④NGO 福岡ネットワークのパンフレットから、福岡で活動する NGO を確認し、特に NGO ソルトパヤタスのパンフレットから、NGO の活動を知る。</li> </ul> </li> <li>・元海外青年協力隊への質問を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界一受けたい授業～児童労働と ILO～」のビデオとユニセフのパンフレット</li> <li>・ JICA のパンフレット</li> <li>・ NGO 福岡ネットワークの福岡の NGO 紹介パンフレット</li> <li>・ NGO ソルトパヤタスのパンフレット</li> <li>・ワークシート⑧</li> </ul>

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【9時限】</b></p> <p>テーマ： 元青年海外協力隊員に学ぼう</p> <p>ねらい： 海外で実際に活動を行った人に、活動の様子や活動に参加前、参加中、参加後の気持ちや学んだことを聞くことで、海外でがんばる日本人の生き方を学ぶとともに国際協力活動をしてみたいという気持ちを育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習会の流れ               <ol style="list-style-type: none"> <li>① はじめのことば</li> <li>② 元青年海外協力隊員の紹介</li> <li>③ シンハラ語であいさつをしよう (シンハラ語を書こう・スリランカのうちずき)</li> <li>④ スリランカクイズ</li> <li>⑤ 民族衣装サリーを着てみよう</li> <li>⑥ 現地での活動について</li> <li>⑦ 質問コーナー</li> <li>⑧ お礼</li> <li>⑨ おわりのことば</li> </ol> </li> <li>・ 青年海外協力隊の活動やスリランカについてわかったことをまとめる。</li> <li>・ 江崎真由見さんの生き方から学んだことや話の中で印象に残ったこと考えたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲストティチャー (元青年海外協力隊スリランカ隊員 江崎真由見さん)</li> <li>・ スリランカでの江崎さんの活動のビデオ</li> <li>・ サリー</li> <li>・ プレゼンテーション 「スリランカ」</li> <li>・ プロジェクター</li> <li>・ パソコン</li> <li>・ ワークシート⑨</li> </ul>
<p><b>【10時限】</b></p> <p>テーマ： 貧困のない世界をつくる方法と実施する団体を考えよう</p> <p>ねらい： 貧困を断ち切る方法の多くは、規模に応じて様々な団体が行うべきことにも、本来現地政府が行うべきことにも、外国の協力・支援が必要なことを理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7時限で考えた貧困の輪を断ち切る方法（全クラスで出てきた方法を一覧にまとめたもの）を実施する団体は、自分、国連、フィリピン政府（現地政府・現地役人）、現地企業、現地の人、外国政府（政府・外国の役人）、外国の人（NGO・ボランティア）、外国企業のいずれが行うとうまくいくかを考える。</li> <li>・ 将来、大人になった自分が世界の貧困をなくすためにできることを5つ以上考える。</li> <li>・ 世界大統領になったら、どのような世界をつくるか。そのためにどのような取り組みをするか、どのような法律をつくるかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート⑩</li> </ul>



時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【11 時限】</b></p> <p>テーマ： 貧困のない世界をつくるためのマニフェストを作成し、世界大統領に立候補しよう</p> <p>ねらい： マニフェスト作成と大統領選挙を通して、自分たちが考えた貧困をなくすための政策や法律が有効であるか、実現可能であるかを考える。また、現在の日本の社会保障政策の意味について理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人で貧困のない世界をつくる政策や法律をブレinstローミングでできるだけ多く出し、それを班ごとに政策作成シート上で分類する。</li> <li>・ 班を一つの政府として班の各係が以下の大臣となり、自分の分野で実行したい政策を選び、話し合いでマニフェストを作成する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 班長 → 大統領・総理大臣</li> <li>② 学習係 → 文部科学大臣（教育関係）</li> <li>③ 清掃係 → 厚生労働大臣（保健・労働関係）</li> <li>④ 生活係 → 財務経済産業大臣（お金・企業関係）</li> <li>⑤ 牛乳係 → 農林水産大臣（食料関係）</li> </ul> </li> <li>・ 自分の班のマニフェストを発表し、他の班からの質問や意見に答える。</li> <li>・ 選挙により世界大統領を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付箋紙</li> <li>・ 政策作成シート</li> <li>・ ホワイトボード</li> <li>・ 水性ペン</li> <li>・ ワークシート⑪</li> </ul>
<p><b>【12 時限】</b></p> <p>テーマ： NGO ソルトパヤタスの小川恵美子さんの生き方から学ぼう</p> <p>ねらい： 小川さんの生き方から、他人の喜びを自分の幸せと仕事の意味として考えることができることに気づかせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小川恵美子さんの新聞記事とテレビのインタビューから、小川さんのイメージを発表する。</li> <li>・ 「ソルトパヤタスをはじめたきっかけ」を読んで、自分だったら行動に移せるか考える。また、小川さんが行動に移せた理由を考える。</li> <li>・ 小川さんの周りに多くの支援者やボランティアが集まる理由を考える。</li> <li>・ 小川さんの「うれしかったこととこれからの夢」を聞いて感じたことや学んだことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010 年 10 月 31 日の朝日新聞の小川恵美子さんの記事</li> <li>・ 「小川恵美子さんのインタビュー」ビデオ</li> <li>・ DVD「神の子」</li> <li>・ プレゼンテーション「小川恵美子」</li> <li>・ ワークシート⑫</li> </ul>

## 授業の詳細

### ●第1時 「世界がもし37人の村だったら」

子どもたちは、一部の地域を除き、多くの国で日本と同様に十分な食事と安心して生活できる場所が確保されていると感じています。そのような状況の中で、世界全体の富の配分がどのくらい不公平であるかを体験できるように、世界をクラス37名に縮小した一つの村と考え、役割カードにしたがって動き、その立場になった時の気持ちを発表する活動を行いました。

最初に、アイスブレイキングとして、役割カードに書かれた国の言葉で、挨拶をかわし同じ言語ごとにグループを作りました。そのなかで、中国語の次に、英語やスペイン語が多いことがわかり、その意味を考えさせました。英語とスペイン語をしゃべる国の図を提示したことで、過去の植民地政策に理由があることに気づかせました。

次に、役割カードの記号△□○にしたがい3つのグループを作りました。各グループにグループ分のお茶と人数分のコップを渡し均等に分けました。一人あたりのお茶の量を比較した後、自分のお茶を飲み、感じたことを発表させました。

#### (△富裕層の感想)

- ・ひとりで飲めてうれしい。
- ・他のグループはかわいそう。分けてあげたい。

#### (□中間層の感想)

- ・△の人はずるい、うらやましい。○の人はかわいそう。
- ・どうして、自分たちはこれくらいしか飲めないの。

#### (○貧困層の感想)

- ・とても不公平だ。屈辱的だ。
- ・□はうらやましい。△は、もっとうらやましい。

この活動を通して、生徒は、富が少数の先進国に集中していること、多くの人口の貧困層が、少ない富を配分していることに気づき、それぞれの立場の気持ちを体験することができました。

最後に「貧しき途上国の仲間より」を読んで考えたことや授業の感想を書かせました。

- ・世界には、この詩を書いた人のような生活をしている人が本当にいるのかと疑ってしまうほど、貧しい生活をしているのだなと思いました。なぜ、助け合えず自分のことしか考えられない人が多いのだろうと思いました。これからは、人は助け合わなければと思いました。
- ・世界には、いろいろな人が住んでおり様々な生活をしていることがわかった。つらい思いをしている人、優越感にひたっている人など、いろいろな思いを持っていることがわかった。



【英語とスペイン語しゃべる国】



【△富裕層のお茶を飲む様子】



【○貧困層のお茶を飲む様子】

### ●第2時「識字学級」

人権学習週間に行う識字学級の授業の中で、北代色さんが書いた手紙「夕やけがうつくしい」を題材に、字を読み書きできることの意味を問うことで「学ぶ」意義を考えました。そこで、病気の親のために薬を買いに行く場面を設定しました。ネパール語で書かれた水、薬、毒ラベルが貼られたペットボトルの中から一つ選び、親に薬を飲ませるロールプレイを行い文字が読めないことの不便さを体験させました。



【親に誤って毒を飲ませた様子】

次に知らない文字ばかりに囲まれた生活をイメージし、困る場面を発表しました。

- |          |           |           |          |
|----------|-----------|-----------|----------|
| ・看板が読めない | ・新聞が読めない  | ・人にだまされる  | ・仕事につけない |
| ・はずかしい   | ・買い物ができない | ・乗り物に乗れない | ・書類が書けない |

これらのことから、生徒は、文字を読めない書けないことが貧しさの原因になることに気がつきました。そのあと、北代さんが、文字を覚えることができた理由について考えさせました。その中で、本人が強い気持ちで努力したこと以外に、識字学級という場所があったことや周りの支えや支援があったことにも気づくことができました。最後に、学ぶ意義と感想をまとめさせました。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・北代さんは貧乏で学校へ行けなく、勉強がしたかったけどできなかったのに、私は勉強ができることが幸せなことだと思っていませんでした。</li> <li>・字を書けなかったり、読めなかったりしたら、生活や仕事もできず、生きていけないことがわかりました。また、努力すれば字を書けるようになり自信がつくことがわかりました。</li> </ul> |
|---|

### ●第3時「フィリピンのパヤタスの子ども」

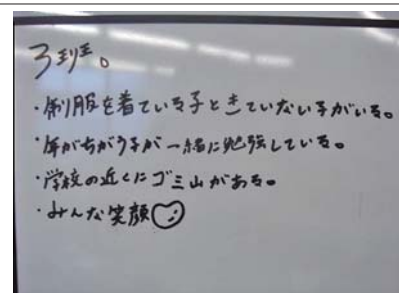
自分たちとフィリピンのゴミ山でくらす子ども達の生活や意識の違いに気づかせるために、プレゼンテーションを作成しました。

はじめに、フィリピンについて知っていること・イメージを発表させました。その後、現地で取材してきた学校での授業の様子のビデオや写真を通して、日本とフィリピンの学校の様子の違いを探し、班ごとにまとめさせました。以下が主なものです。



【フォトランゲージ（学校の様子）】

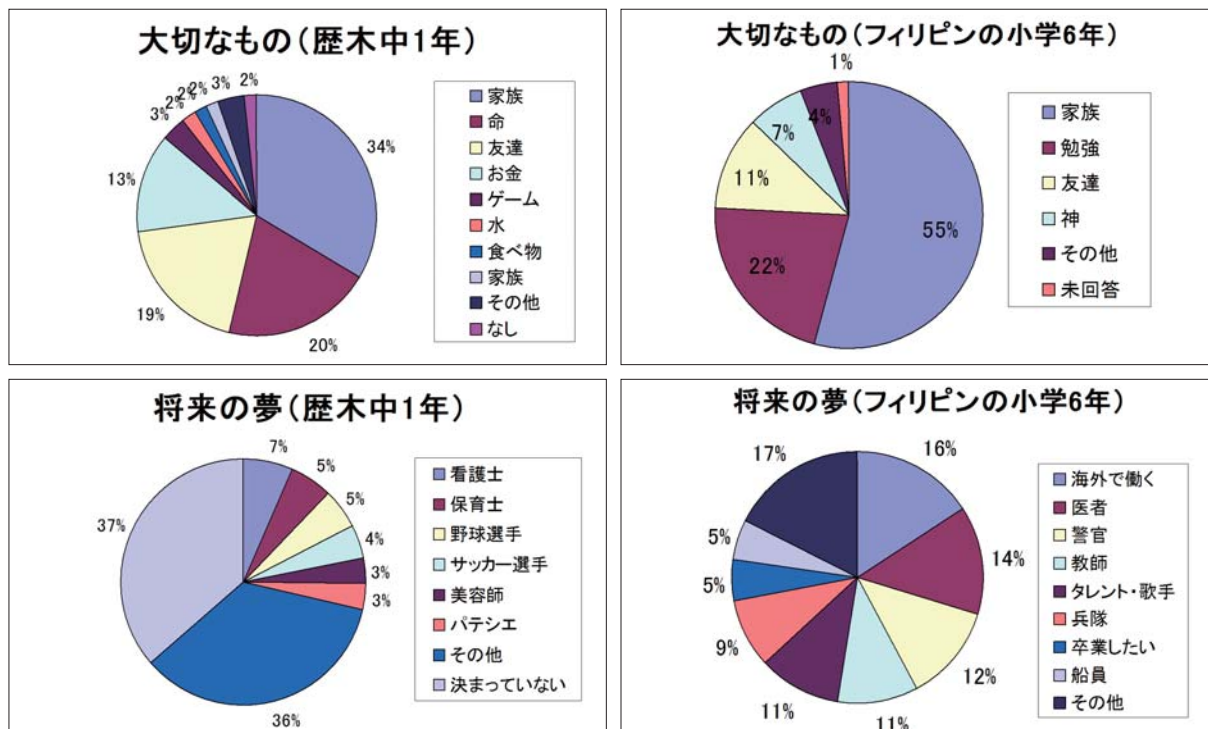
- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの教室に生徒がたくさんいる。</li> <li>・制服を着ている子と着ていない子がいる。</li> <li>・年が違う子が一緒に勉強している。</li> <li>・机が小さい。教科書がない人がある。</li> <li>・窓に鉄わくがついている。</li> <li>・みんなが笑顔である。</li> </ul> |
|--|





それぞれの違いの理由を考えさせるとともに、答えが出ないものは、補足説明を行いました。このことから、フィリピンの学校が抱える問題点に気づくことができました。

次に、自分の大切なものと将来の夢とフィリピンのパヤタスの小学6年生のものと比較しました。



生徒は、フィリピンの子どもが大切にしているものの中に、勉強と神が入っていることに驚いたようでした。また、将来の夢に、海外で働くことや兵隊、学校を卒業したいがあることで、生徒は、働く場所が少ないことなど日本とフィリピンの国内の状況の違いを理解することができました。

さらに、学校の生徒より厳しい状況にあり、学校に行かずにゴミ山で働く子どもたちのインタビューをビデオで見せました。お昼のご飯代がないために、思い出せないくらい前から働いているジョーベン君。16歳で小学校を卒業し、中学に行きたいという思いをおさえ、妹の学費のために働くジョー君。ジョー君の「もう自分の夢なんて忘れてしまった。」というインタビューを聞いた時、教室がシーンと静かになりました。



【インタビューを見ている様子】

- ・自分の好きなことができなくなって、夢を忘れてしまうくらい働くなんて悲しい。
- ・自分のことより家族を大事にしているのがすごいと思いました。
- ・勉強するのが当たり前だと思っていたけど、他の国では勉強できずに働いて、だから、学校に行けることが幸せなので、教室の中の生徒が笑顔なのだと思った。
- ・私は、今まで両親が働いて、家族のためにお金をもらってくるのは当たり前と思っていました。でも、そんな甘いことではないと今日気づかされました。自分の家族のために夢をすて、働く勇気がすごいなと思いました。

#### ●第4時「チョコレートCMから見える世界の裏側」

家でテレビを見ていた時、ふとチョコレートのCMが目にとまった。このCMを見たら、生徒は、どのように感じ、何を考えるのか知りたくなり、早速「チョコレートCMから見える裏側の世界」の授業を行いました。このCMは、チョコレートを買うとガーナの子ども達に売り上げの一部が寄付され、ガーナの学校で笑顔の生徒があふれているシーンを映したものでした。

はじめに、生徒がよく知っている100円程度の三社のチョコレート商品と500円の「幸せのチョコレート」と名前がつけられた商品の4つを掲示し、どの商品を買うかを聞いてみました。その後CMを見せ感じたことやなぜこれを行うかなどを発表させました。そして、再度買いたいチョコレートを選ばせると、CMの会社の商品を選んだ生徒が25%から71%に急上昇しました。

- ・ コマーシャルを見て、私たちがチョコを買えば教育支援ができ、少しでも貧しい子の役に立てるのだと思うと、とてもいいキャンペーンだと思います。
- ・ 感謝の気持ちとガーナの子ども達も笑顔にしたいと思ったから。
- ・ 会社のイメージアップのため

次に「世界がもし100人の村だったら～カカオ農園で働く子ども～」のビデオを視聴させ、ガーナの児童労働の実態を知らせました。また、「あいのり～カカオの真実～」のビデオを視聴させることで、先進国の思惑、換金作物を作るようになった歴史、カカオの値段の決めり方などカカオ農園の人たちが貧困から抜け出せない仕組みについて理解させることができました。

- ・ 先進国は、ガーナの人々の苦労も考えず、安いお金しかやらないで、自分たちは、お金にあふれて生きているから、せこいと思った。
- ・ アフリカの現状も知らないで、笑顔でチョコレートを食べていたなんてショックです。

最後に、チョコレートに関する様々な取り組みがあることを説明しました。欧米では、児童労働でつくられたカカオを原料にしたチョコレートの不買運動があること。現地の人々が生活できる適正な価格で買い取った原料でつくられるフェアトレード商品。幸せのチョコレートを販売するNGO団体のACEの取り組み。日本の会社の多くは、児童労働のカカオと疑われていることを知りなが

ら、使っていること。同じ会社の同じ商品で欧米ではフェアトレードの材料を使いながら、日本では、安い材料を使っていること。その原因として、日本人が安い商品を好む意識と自分の身の回りのものの裏側の世界を知らないこと。これらのことから、CMの商品を買い続けることでガーナの児童労働が減少し、なくなるか、一番の解決策は何かを生徒に問いかけました。生徒の中からは、「CMの商品を買うことで、確かに学校に行ける生徒が増えるかも知れないけど、安い材料を使う限りは、売れすぎれば材料を集めるために、児童労働がふえるだけで、結局は売り上げアップで会社がもううけるだけなのかな。」「一度は500円のチョコを買が、実際は、やっぱり安くて好きなのを買ってしまおうかも。100円でフェアトレード商品があるならいいが。」などの意見が出ました。最後に授業後の感想を書かせました。



【幸せのチョコレートとフェアトレード】





・父親の会社のリストラ ・両親が病気で寝たきり ・両親が死亡 ・隣の国から逃げてきた  
 ・農作業中の事故 ・火事で全焼 ・借金で土地を奪われて ・両親が高齢 ・内戦 ・戦争  
 ・借金が返せなく逃げてきた ・畑仕事の農薬が原因で病気になって ・父がトラックにひかれて  
 ・台風で洪水になり ・異常気象で畑の作物が全滅して ・工場で感染症がはやって

この活動を通して、貧困の背景には、様々な原因があることに気づかせることができました。

### ●第6時 「なぜ、日本は、借金大国なのに海外支援をするの？」

日本は借金大国なのに、1年間に6000億円以上の海外支援に使うことに、賛成か反対か考え、その理由について発表させました。賛成12人は、「一人でも多くの命を救いたいから」「輸出・輸入の問題があるから」「日本人よりも海外の人がもっとつらい思いをしているから」などをあげていました。反対85人は、「日本の借金を返す方が先では。海外のために使いすぎ」「そのお金を国民に分けてほしい」「日本のホームレスや高齢者の方にそのお金を使った方がいい」などをあげていました。さらに、反対の生徒には、日本が海外支援を続ける理由を考えさせました。生徒は、「貧しい人たちを一人でも多く助きたい。」「日本が困ったときに助けてもらう。」「日本という名のイメージアップ」「日本はやさしい人がたくさんいるから」「他の国から支えてもらっているから」などをあげました。次に、「池上彰の学べるニュース～日本のODA～」のビデオを見せ、わかったことをまとめさせ、再度、賛成・反対の立場を明らかにさせ、その理由を発表させました。

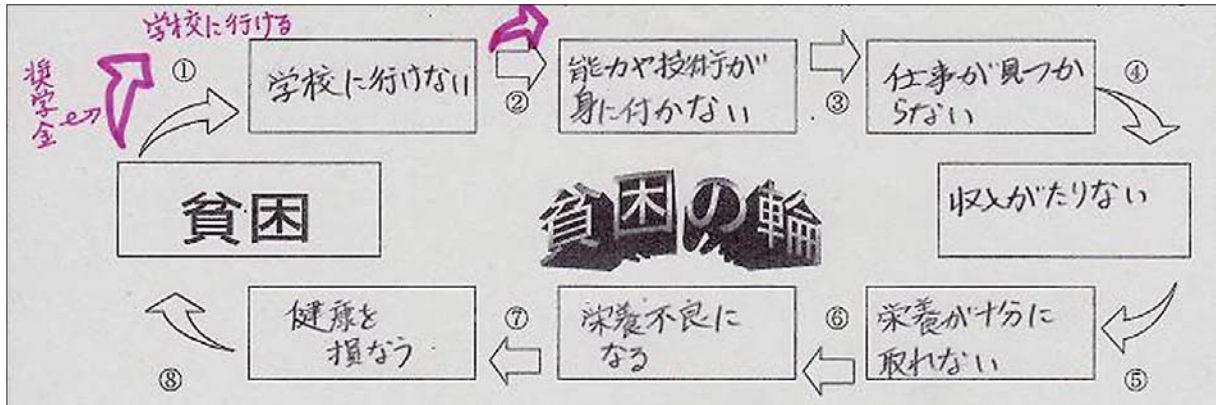
その結果、賛成78人、反対19人に大きく意見が変化しました。賛成の理由として「昔、日本は食糧などで援助してもらい、経済大国にまで発展しているから、今度は援助する側にならなければならないと思ったから」「ODAは、聞いたことなかったけど、ODAは、とてもいいと思いました。海外支援は、やった人にも利益が入って、ずっと続けてほしいと思いました。日本の支援が、『魚をあげるより、釣る方法を教えてあげる。』というのがいいと思いました。」などをあげていました。このことから、生徒の多くは、国際協力活動は、互いのメリットにつながり、必要であるという認識を持つことができたようでした。最後に、今日の授業の感想を書かせました。

昔、日本が残した悲しい歴史がつぐなえるなら、借金が増えても援助した方がいいと思います。中国やアジアの人々にちょっとでも恩返し（罪ほろぼし）ができるなら、絶対援助すべきだと思います。世界の人々を見たらちょっと感動しました。戦後すぐの頃、今の貧しい日本にお金をはらわせたくないと言っていることは、ほこりだと思います。昔、ひどいことをしてすみませんという気持ちを日本も持っていたんだなと思いました。

### ●第7時 「貧困の輪を断ち切る方法を考えよう」

最初に、貧困カード「①学校に行けない、②能力や技術が身につかない、③栄養不良になる、④仕事が見つからない、⑤健康を損なう、⑥収入が足りない、⑦栄養がとれない、」と「貧困」と書かれたカードの合計8枚を班に渡しました。生徒は、班でそれぞれのカードのつながりを話し合いながら、「貧困」を出発点に、7枚の貧困カードを並びかえ、貧困の輪を作りました。この作業を通して、貧困の原因と原因がつながり、悪循環を生み出すことに気付かせることができました。





【生徒が作成した貧困の輪】

次に、自分がその悪循環の中にいるとしたら、自分ひとりの力で、その悪循環から抜け出せるかを考えさせました。「抜け出せない」と答えた生徒が97人で、「抜け出せる」と答えた生徒が1人でした。抜け出せると答えた生徒の方法は、「自殺する」というものでした。この生徒については、あとでなぜそう思ったのか話を聞いてみました。さらに、自分一人の力で抜け出せないとしたら、「外部からどのような支援があると抜け出せるか」を個人で考えさせた後、班で意見をまとめさせ、発表させました。先に一つの例として、上図の①の部分では、奨学金制度をつくると学校にいける生徒が増えることや、①～⑧の問題に対して、日本では、どのような取り組みが行われているかを参考に考えるよう指示しました。その結果、生徒は、以下のような政策を考えました。

- ①の部分 → 義務教育にし、授業料・教科書・給食を無料にする。無料の塾をつくる。
- ②の部分 → 大人のための職業訓練校をつくる。外国から技術者を送る。
- ③の部分 → 国が仕事をつくる。外国の企業が工場をつくる。就職応援する役所をつくる。
- ④の部分 → 生活保護を受けられるようにする。外国から支援する。
- ⑤⑥⑦の部分 → 食事を配る。栄養剤を配る。野菜の作り方を教える。
- ⑧の部分 → 病院を無料にする。検査を無料にする。安いもので薬をつくる技術を教える。

最後に、授業を終えて考えたことや感想を書かせました。

私たちは、学校にもいけるし、すごくぜいたくなことなのだと思います。貧困の輪を断ち切るために、募金活動もいいけど、技術を教えに行くことだと思います。技術を身につけた人は、そのおかげで仕事につき、貧乏から抜け出せるのではないかと思います。

## ●第8時 「いろいろな国際協力する団体について学ぼう」

前時の政策を実際に行っている団体を学ぶために、いろいろな国際協力団体の活動について具体的に確認する場を設定しました。そこで、貧困の問題、児童労働の問題に取り組む主な機関や団体として、国連やJICA、NGOの活動を紹介することにしました。

はじめに、国連の活動を代表してILOの活動を紹介しました。「世界一受けたい授業～児童労働とILO～」のビデオ



【学校のユニセフ募金箱】


を見せることで、フィリピンやガーナの児童労働だけではなく、世界中に悲惨な児童労働があり、それを解決するためのILOの活動を知らせることができました。さらに、ユニセフのパンフレットから、ユニセフの活動を確認し、歴木中の生徒会のユニセフ募金の取り組みの意味について考えさせました。「今まで、なんとなく募金をしていただけ、募金の大切さが分かったので、積極的に募金していきたい。」と発言する生徒も見られました。次に、JICAのパンフレットを使い、青年海外協力隊とシニアボランティアの活動を確認しました。そして、NGO福岡ネットワークのパンフレットから、福岡にはどんなNGOがあるか。特にNGOソルトパヤタスのパンフレットを例に取り、NGOの活動とは、どういうものかを説明しました。また、NGOの活動が寄付やボランティアに支えられていること、正規の職員の給料などについてもふれました。最後に、自分が現在・将来関われることを考えさせることで、資金援助やボランティアなど自分にもできる活動があることに気づかせることができました。



【集会での生徒会の募金説明】

### ●第9時 「元青年海外協力隊員に学ぼう」

青年海外協力隊に実際に参加した大牟田市立延命中学校の江崎真由見先生に来ていただいて、青年海外協力隊の実際の活動の様子や活動に参加前、参加中、参加後の気持ちや学んだことを聞きました。学習会では、戦場カメラマン渡部さんのものまねで自己紹介をされました。そこから、「渡部さんがスリランカに行ったことがあるということとは？」と生徒に問いかけることで、スリランカでは、内戦があったことに気づかせ、シンハラ人とタミル人の関係などを説明されました。その後、生徒は、シンハラ語を書いたり、スリランカのあいさつやスリランカタイズを行ったり、サリーショーなどをしながら、スリランカについて学びました。

【学習会の流れ】	【プロフィール】	【スリランカについて】
① はじめのことば ② 元青年海外協力隊員の自己紹介 ③ シンハラ語であいさつ ④ スリランカタイズ ⑤ 民族衣装サリーについて ⑥ 現地での活動について ⑦ 質問コーナー ⑧ お礼 ⑨ 終わりのことば	① 隊員名 (江崎 真由見) ② 職種 (家政) ③ 派遣国 (スリランカ) ④ 任地 (697教員養成大学) ⑤ 仕事内容 19歳～23歳くらいの人たちに教材を紹介したり、先生達と交流をしたりする活動	<b>スリランカ民主社会主義共和国</b> (国旗)  (民族) シンハラ人 73%、タミル人 18% (公用語) シンハラ語、タミル語 (宗教) 仏教 70%、ヒンドゥ教 10%

1. シンハラ語であいさつをしよう!!  
 『アーユーボワーン』(こんにちは)      シンハラ語を書いてみよう

ආයුබෝවන් →

【学習会の流れ・プロフィール・スリランカについて】



【シンハラ語を書いてみよう】



【サリーの説明と着方】



【サリーショー】

次に、青年海外協力隊の活動の様子をビデオで見せながら説明をされました。スリランカの学校の様子や子ども達の日本に対するイメージ、スリランカの食事やコミュニケーション、スリランカでのものの感じ方、テロが起こった時の対応など様々なことについて話をされました。

最後に、生徒は、疑問に思ったこと気になることについて、江崎さんに質問をしました。

Q 1. なぜ、参加しようと思ったのか	A 1. 中学生の頃から世界に興味があり、世界を自分の目で見てみたかった。海外の貧しい人を救いたいと思うのが本当なのですが、海外で働いてみたい、先生を辞めずに行けるので参加した。ただ、目の前の人を幸せにしたいという気持ちは持っていた。
Q 2. 不安はなかったか	A 2. 行こうと決めたら、見えなくなるので不安はなかった。あとで、テロがおこっていることを知った。
Q 3. 衝撃的な体験は	A 3. 修学旅行の時、水牛も入っている湖で体を洗ったこと
Q 4. きつかったこと	A 4. はじめ言葉が通じなかったり、様々な病気にかかったこと
Q 5. よかったこと	A 5. スリランカでしか体験できないことができたことや、今でも、手紙や電話で話したりでき、人とつながることができたこと。
Q 6. 感動したこと	A 6. ものがたくさんあるわけではないのに。分けられないような小さなアメまでみんなでわけて食べるやさしさにふれたこと
Q 7. 今に活かされていること	A 7. 物事の見方が広がったことやスリランカの人や全国の協力隊のOB・OGと今でもあったりして刺激を受けたりしていること。

授業後の感想を見ると、今回の学習会を通して、海外で働く意味を理解し、国際協力活動をしてみたいという気持ちを育てることができたことがわかります。

- ・一番衝撃的だったのは、いつも私たちが使っているような水ではなく、汚い水で洗っているということでした。私たちは、うわっと思うけど、スリランカの子供や大人の人たちは、普通に何の違和感もなく使っていると思うと、私たちは恵まれているんだと思いました。
- ・最初はテロがありこわいところかなと思ったけど、話を聞くうちに「楽しそう」「行ってみたい」などの好奇心がわいてきた。話を聞けてためになりました。
- ・どこの国でも学校生活は、生徒にとってとても楽しい場所なんだと改めて思いました。
- ・私は、青年海外協力隊は、大変そうだと思っていたけど、楽しかったことや感動したこともあると聞いたので、イメージが変わりました。私も青年海外協力隊に入って、自分の目で見てみたいと思いました。
- ・青年海外協力隊の活動は、すごいと思いました。スリランカの国の子供たちは、みんなが笑顔でいい国なんだなと思いました。江崎さんは、すごいと思いました。外国に行こうと思う気持ちがあることがすごいと思いました。これから、ボランティアなどをする機会があれば、進んで参加しようと思います。
- ・知り合いもいないし、ことばも違う場所にボランティアに行くのはすごいことだと思いました。僕も江崎先生のように、挑戦する勇気を持ちたいと思いました。

## ●第10時 「貧困のない世界をつくる方法と実施する団体を考えよう」

第7時で考えた貧困の輪を断ち切る方法（全クラスで出てきた方法を一覧にまとめたもの）を実施する団体は、自分、国連、フィリピン政府（現地政府・現地役人）、現地企業、現地の人、外国政府、外国の人（NGO・ボランティア）、外国企業のいずれが行うとうまくいくかを、それぞれの方法について考えました。生徒の多くは、ほとんどすべての政策は、フィリピン政府がするべきと書いていました。しかし、私が経験した、インドネシアで津波の際の現地政府の対応やフィリピン政府が抱える









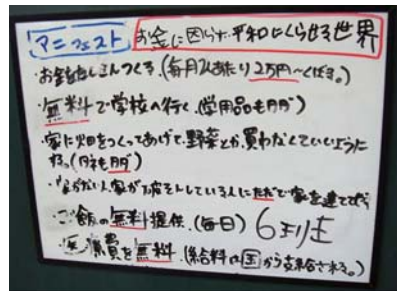
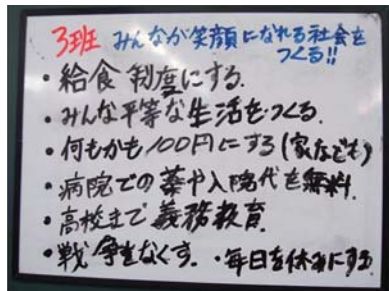
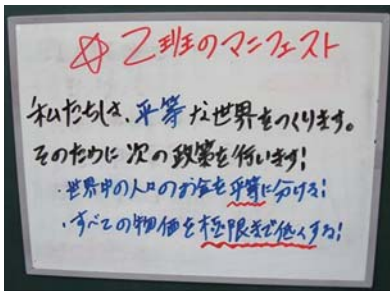
【ブレinstoーミング】



【政策作成シートで分類】



【マニフェスト作成】



【各班のマニフェスト】

次に、世界大統領選挙戦のために、自分たちの班のマニフェストを発表させました。班の中には、スローガンはいいが、具体的な政策がない班も見られました。それらに対して、生徒は、様々な質問や意見を出し、次のようなやりとりが行われました。「戦争をなくすとは、どうやってなくすのですか。」「兵器をなくします。」「じゃ兵器をつくっている人たちはどうするのですか。」「みんなにお金をくばるための財源はどうするのですか。」「お金を刷ります。」「平等とは何を持って平等というのですか。」「お金の平等です。」など。これらの質問や意見に対して、生徒では明確に答えられない場合が多く見られたので、教師の方で次のような、補足説明を行いました。戦争の問題に対しては、「軍需産業がある限り、武器を売るためにどこかで軍需産業に関係する人が戦争を起こすかも知れない。軍需産業の会社を、今持っている科学力・技術力を活かして宇宙開発や環境問題に取り組む会社にしてはどうか。」と説明しました。財源の問題に対しては、「現在の生活保護費、医療費、年金などの社会保障費をなくし、一括で国が一人10万ずつ出して、すべてをまかなってもらったらどうか。」と説明しました。平等については、「確かに貧富の格差がないことは、平等であるが、心の豊かさの点で平等を考える方法もあるのではないか」「貧富の格差をなくし平等をめざした国々が、社会主義国家でソ連、北朝鮮、東欧などではうまくいかなかったこと」「中国も社会主義国だが、現在市場経済を取り入れ貧富の格差が大きくなっていること」「キューバは、ある程度うまくいっていること」などを説明しました。このことで、生徒は、自分たちが考えた貧困をなくすための政策や法律が有効であるか、実現可能であるかを考えることができました。また、現在の日本の社会保障政策の意味についても考えることができました。

最後に、選挙の投票を行い、世界大統領を選ばせた。その際、スローガンだけでは惑わされないこと、具体的な政策があるか、それが実現可能か、将来まで持続可能な社会、将来の世代につけを残さない社会（環境にやさしい・お金が続く・人権が守られている）にできるかをしっかり考えさせて、自分のネームプレートを支持する班のマニフェストの下に貼らせました。その結果2班が選ばれ、2班の班長に自分たちのマニフェストを大統領宣言として再度発表させました。

これらの活動を通して、日本の政治や選挙、福岡県の政治、大牟田市の政治についても考える機会

になりました。最後に、今までの活動を活かして、学校生活をよくするために生徒会の活動、学級の問題を解決するために学級会を活性化していくことが第一歩であるとまとめました。



【マニフェスト発表の様子】



【マニフェストの投票結果】

### ●第12時 「NGO ソルトパヤタスの小川恵美子さんの生き方から学ぼう」

実際に、自分にできることから行動をおこし、NGO 団体を設立し国際協力の活動している小川恵美子さんを題材に道徳の授業を行いました。

最初、NGO ソルトパヤタスの活動と小川恵美子さんの人柄がわかるように、小川さんに関する新聞記事とテレビのインタビューから、小川さんのイメージを発表させた。生徒は、思いやりのある人、優しい人、明るい人、しんぼう強い人と答えました。次に、小川さんに直接聞いて作成した資料「ソルトパヤタスをはじめたきっかけ」を読み、実際に小川さんが見た光景と同じようなシーンを映したDVD「神の子」の一部分を視聴し、小川さんの体験を想像させました。そこで、もし、同じような体験をしたら、何か行動に移すかを質問しました。38%の生徒が行動に移すと答え、募金やNGO 団体への寄付などをあげていました。62%の生徒は、行動に移さないと答え、「何かしてあげたいと思うけど、やっぱりそういうところには行きたくない」「見ているのがつらい、自分が食べていけるか心配」「何をしたいかわからない」「もし途中で活動をやめたらかわいそう」「人も大事だけど自分が大事」を理由にあげていました。



【新聞記事】

私自身が活動を始めようと思ったきっかけは、24歳の時にスタディツアーに参加したことです。94年、あるNGOが企画したツアーに参加し、人がゴミ山で働いている姿を見て衝撃を受けました。たまたま働いている子にインタビューをさせてもらうことができ、女の子が、学校に行きたいけれど働かないと食べていけないので学校に行かなくなったという話をしてくれました。帰り際、その女の子に握手をしようとした時に手をひっこめ、自分は汚いからと言ったのが忘れられない経験となりました。家族のために働く偉い子が尊厳を感じられずにいること、貧困のサイクルから容易に抜け出せないこと、そんな子どもが次々と生みだされている事実に対し自分がどうしているのか分からず、帰国後しばらくは、無力感で悶々としていました。その後、19名の子どもが小学校に行けないかもしれない、支援してほしいという話が舞い込んできました。自分はちっぽけで全ての子どもを救うことはできませんが、その子どもたちのためにならできることがあるかもしれない、できることをやっと思い、一緒にツアーに行ったもう一人の女性とソルトを始めました。

【資料 ソルトパヤタスをはじめたきっかけ】



さらに、小川さんが教師をやめてまで、NGO ソルトパヤタスをつくり活動したのかを考えさせました。生徒は、「ゴミ山の現実から目を背けられなかったから」「体験が衝撃的だったから」「自分のことより、相手のことを1番に考えて、何かできることはないか、何かしてあげたいという気持ちが強かったから」と答えていました。

その後、フィリピンでのインタビューをもとに作成したプレゼンテーションを使って、一番つらかった体験「ゴミ山の崩落事故」をDVDで見せ、そのときの小川さんの気持ちを考えさせました。生徒は、「支援した生徒が死んでしまうなら活動しても無駄だ、やめたい、もう帰りたい」「もうゴミ山に入ってほしくない」「悲しい・苦しい・かわいそう」という答えが多くありました。



【プレゼンテーションで授業を行う様子】

これらに意見に対して、「小川さんは、やめたいと感じただろうか」「実際に4ヶ月ゴミ山が封鎖されて、そこで暮らす人の生活がどうなったと思う」と問い返すことで、ゴミ山の必要性に気づかせることができました。次に、1年間大学を休学してボランティアに参加している大学生のインタビューをもとに、小川さんの周りに、多くの支援者やボランティアが集まるのはなぜかを考えさせました。生徒は、「小川さんの気持ちに圧倒されたから」「信頼されているから」「頑張っているから応援したい」「すばらしい姿を見てこの人みたいになりたいと思ったから」「小川さんの行動に多くの人が共感したから」「口だけじゃなく、本気で行動しているから」と答えました。

生徒は、小川さんの行動を通して、口だけじゃなく本気で頑張る人の周りには、人が集まってきて応援してくれる人、支援してくれる人が現れることに気がつくことができました。

最後に、小川さんの「うれしかったことこれからの夢」を聞いて感じたこと、考えたことや小川さんの生き方から学んだことを書かせました。

ここでゴミ拾いしかできないとあきらめていたパヤタスの人たちが、本当は潜在能力を持って、外から現れた私たちが活動することで、どんどん変わっていき、地域も少しずつ変わっていくところが見られることです。また、若い人たちがどんどんあらわれてきてくれることです。きっと、次の世代が私たちの思いを引き継いでくれると思います。

【うれしかったこと】



現地のパヤタスのお母さん達だけの収益金だけで、奨学金活動やデイケアセンターが維持できるようになり、日本人や寄付に頼らないで自立して活動が続けられる組織になってくれたらと思います。【それが達成されたら?】 フィリピンには、ここよりもっと苦しい生活や学校に行けない子ども達がたくさんいます。別の地でソルトパヤタスのような組織を作り、そこで活動を続けます。一生この活動を続けられたら幸せです。

【これからの夢】

生徒は、小川さんの生き方から、あきらめないことの大切さ、他人の喜びを自分の幸せと感じることができ、自分のためだけでなく人が幸せになることが自分の仕事をする意味として考えることができることを学ぶことができました。以下は、生徒が学んだことを書いたものです。

- ・何でも努力し、笑顔で乗り越えていくことを学びました。小川さんみたいな活動ができたならなと思いました。小川さんは、たくさんの人たちに信頼され、素晴らしい方だったんだなと思いました。
- ・言っていることが前向きだなと思いました。小川さんは、お金も少ないのに、ただ支援しているだけなのに、それだけで幸せだと言えることがすごいなと思いました。
- ・人が聞いて苦しい、つらいと考えることを小川さんは楽しいと受け入れて、自分から何かを試みる精神はすごいと思いました。夢が叶ったら、また夢を探し、またゼロの場所に飛び込もうとするのが、とってもかっこいいと思いました。
- ・小川さんの考えは、普通はなかなか無理だと思います。だけど、小川さんはやっているのだから、僕たちも少しきついからといって、すぐあきらめるのではなく、頑張ってみようと思います。
- ・小川さんの笑顔を見ていると、自分も何か協力できることがあるのではと思いました。
- ・人の役に立てることが幸せという気持ちがすごいと思います。今まで自分が行ってきたことを思い出すと、自分勝手にしていて、相手の幸せを喜ぶことができませんでした。これからは、人の幸せを喜べるような人間になりたいです。

## 成果と課題

生徒のこれまで学んできた貧困の授業を通して、考えたことや感想を以下に紹介します。

- ・最初は貧困なんてどうでもいいと思っていたけど、ビデオを見て衝撃を受けました。自分たちとは真逆でかわいそうだなと思いました。これからは、世界にも目を向けていきたい。
- ・今まで貧困については、あまり考えたことがなかったけど授業を受けて、貧困があってはいけないことだというのが分かった。このことをいろんな人達に伝えていけたらと思う。
- ・貧困国は誰かが変えないと行けない。誰かが活動しなければ行けない。自分がその国に行き、いろんなことを学んだらいいと思いました。
- ・世界にはたくさんの貧しいところがあることを知りました。日本人は、とてもぜいたくをしていると思います。ほしいものがあればお金で買えるし、私はそのお金を貧しい国へ募金するべきだと思います。少しでも多くの人に喜んでもらえるようなことをしたいです。今での授業を通して、現実には甘くはなく本当はこんなものなんだと思いました。
- ・貧困は、簡単には無くならないけれど、努力の積み重ねで少しずつ直していけたらと思う。今できることは少ないけど、大人になったら、一つでも人の役に立てる仕事につきたい。
- ・貧困は世界にいろいろあって、親や大人が子どもを使ってお金を持つようとしている。本当は、親や大人が子どものためにすべてをつぐなって、次の世代へ渡すことだと思います。
- ・貧困に苦しんでいる人は、「貧困から抜け出せないからしょうがない」とあきらめている。けれど、海外支援やボランティアをすることで変えていこうという意識を出すことで、貧困の輪から出ることができることを知ったので、自分ができることをやっていきたい。
- ・人の幸せを一番大事にしていくことが本当の幸せなのかなと思いました。
- ・児童労働でつくられた商品は、これからは買いません。
- ・貧困について世界中にはいろいろな人たちが、いろいろな場所ではがらばっているのだなと思いました。これからその人達の力になれることがあるなら、進んでやりたいと思います。



## (成 果)

- 貧困問題に気付くとともに、自分にも関係ある問題として考えることができるようになった。
- 貧困問題を、自分たちのくらしと世界のつながりの中で考えることができるようになった。
- 貧困問題の背景を理解し、いろいろな方面から解決策を総合的に考えることができた。
- 貧困問題解決のために、自分も何かの役割を果たし関わろうとする意識を持つことができた。
- 世界で頑張る日本人の生き方を通して、あきらめないことの大切さ、人の幸せのために頑張ることのすばらしさを感じ、それが仕事の意義になることを知り視野を広げることができた。
- 問題解決のための過程を経験したことで、今後の学校での問題解決にも活かすことができる。

## (課 題)

- せっかく高まった生徒の意識を、実際の行動に移す機会を設けることができなかった。
- 今回、12時間で行ったが、授業をさらに綿密にし、実際の行動も含めもっと多くの時間確保する必要がある。しかし、現在の本校の学習課程からは、時間の確保が難しい。

## 参考資料・教材など

- ・ フィリピンでとった写真とビデオ
- ・ JICA のパンフレット、研修でいただいた資料
- ・ ユニセフのパンフレット
- ・ NGO 福岡ネットワーク FUNN の福岡の NGO 紹介パンフレット
- ・ NGO ソルトパヤタスのパンフレット
- ・ 元青年海外協力隊員江崎真由見さんのスリランカでの活動の様子を映したビデオ
- ・ 「池上彰の学べるニュース ～日本の ODA～」 朝日放送
- ・ 「世界が 100 人の村だった 4 ～カカオ農園で働く子ども～」 フジテレビ
- ・ 「あいのり ～ガーナ・カカオの真実～」 フジテレビ
- ・ 「世界一受けたい授業 ～児童労働と ILO～」 日本テレビ
- ・ 「ふくおか ツボ Labo 福岡市広報 TV 福岡市市民国際賞」 テレビ西日本
- ・ 2010 年 10 月 31 日の朝日新聞の小川恵美子さんの記事
- ・ DVD「神の子」 四ノ宮浩 Office 4
- ・ 幸せのチョコレート紹介ビデオ NGOACE

## (参考資料)

- ・ 「教室から地球へ」 開発教育国際理解教育アクションプラン研究会 東信堂
- ・ JICA ホームページ、JICA 九州ホームページ、外務省ホームページ
- ・ 「新ワークショップ板 世界がもし 100 人の村だったら」 開発教育協会
- ・ 「援助」する前に考えよう 参加型開発と P L A がわかる本 開発教育協会
- ・ 「貧困と開発 豊かさへエンパワーメント」 開発教育協会
- ・ 「ユネスコスクールと持続発展教育 (E S D) について」 日本ユネスコ国内委員会
- ・ 「E S D 教材活用ガイド」 ユネスコ・アジア文化センター
- ・ 「世界から貧しさをなくす 30 の方法」 田中優 合同出版
- ・ 「戦争をしなくてすむ世界をつくる 30 の方法」 平和をつくる 17 人 合同出版
- ・ 「わたし 8 歳、カカオ畑で働きつづけて」 A C E 合同出版

- ・「世界最貧民の目線 絶対貧困」 石井光太 光文社
- ・「世界がもし100人の村だったら 総集編」 池田香代子 マガジンハウス文庫
- ・「あなたが世界を変える日」 セヴァン・カリス＝スズキ 学陽書房
- ・「世界を救う7人の日本人」 池上彰 日経BP社
- ・「ほった。」 坂本達 mikiHOUSE
- ・「多様性トレーニング・ガイド」 森田ゆり 解放出版社
- ・「白熱教室 JAPAN ～横浜市立大学 上村准教授編～」 NHK
- ・「NGOカレッジ2010 行動したい人のためのNGOカレッジ」 NGO福岡ネットワーク
- ・「国際協力キャリアセミナー」 アジア開発銀行駐日代表事務所・九州大学・JICA

# 開こう！ 未来へのとびらを！

宮崎 聡美  
MIYAZAKI SATOMI

北九州市立天籟寺小学校（福岡県）

担当教科：

- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：4時間
- 対象学年：4年生
- 対象人数：24名

## カリキュラム

### ■実践の目的

本学級の子どもたちは、今年度、10才という節目の年を迎えます。そこで、総合的な学習の時間に、誕生から今までを振り返ることを通して、周囲の人に育ててもらってきたことに気付くとともに、感謝の気持ちを抱けるようにします。また、フィリピンで「今」を一生懸命生きている子どもたちや現地で活躍している日本人との出会いを通して、これからの自分の生き方を考えられるようになります。そして、「2分の1成人式」で保護者に感謝の気持ちと10年後の夢を伝えるようにします。

- 日本とフィリピンのつながりや、共通点と相違点を知ることを通して、フィリピンに興味・関心をもてるようにする。
- スモーキーマウンテンのふもとのジャンクショップで働く2人の少年と自分たちとの共通点や相違点を知ることを通して、自分の価値観や生き方を見つめられるようにする。
- 途上国でボランティアとして活躍する日本人の姿を通して、様々な生き方があることを知るとともに、できることに一生懸命取り組むことの大切さを感じられるようにする。

### ■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<b>【1時限】</b> テーマ： 「フィリピンってどんな国？」 ねらい： フィリピンクイズや小学校の写真を通して、フィリピンへの興味・関心をもつ。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. タガログ語の挨拶や遊びを体験したり、具体物を見て何か想像したりする。そして、これらが、どの国のものかを考える。</li><li>2. 国の位置を地図帳で確認し、フィリピンについて知っていることを話し合う。</li><li>3. クイズ形式で、日本からの距離、人口、気候、食事、言語等を知る。言語を知る際は、タガログ語のラベルがついた3つのペットボトのどれが安全な水か答える。</li><li>4. 街中や市場、小学校の様子から、共通点と相違点を見つける。</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地球儀、世界地図</li><li>・小学校の音楽のVTR（ドレミの歌）、写真</li><li>・国旗、楽器、ヤシの実の殻、ココナッツジャム、うちわ、お金、タオル（ジブニーやサリサリストアーの刺繍付き）</li><li>・タガログ語で書かれたラベルを貼ったペットボトル</li></ul>



時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p><b>【朝の読み聞かせ】</b> ねらい： 絵本を通して、ごみ山で過ごす人々がいることを知る。</p>	<p>パヤタスのゴミ捨て場が舞台の絵本「神の子」の読み聞かせを聞く。</p>	<p>絵本「神の子」</p>
<p><b>【2～3時限】</b> テーマ： 「ジョーベン君・ホセ君と私たち」 ねらい： ジョーベン君とホセ君と私たちの共通点や相違点に気付かせ、共に生きる地球人として、互いのよさを認め合って生きようとする心情を深める。そして、自分の大切なものについて考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 背景を切り抜いたジョーベン君とホセ君の写真から、何をしているのか、グループごとに考える。</li> <li>2. 予想の発表後、背景付きの写真を見る。スモーキーマウンテンのことや、2人の生活や思い（大切なものと夢）を知る。</li> <li>3. 2人との共通点や相違点を考える。</li> <li>4. 自分の大切なものや夢について考え、それをモールで表す。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR</li> <li>・写真</li> <li>・ごみ袋いっぱいのペットボトル</li> <li>・アンケート結果</li> <li>・モール</li> </ul>
<p><b>【4時限】</b> テーマ： 「フィリピンで活躍する日本人」 ねらい： フィリピンの人々の幸せを願って地道な努力を続けている日本人との出会いを通して、国際社会における自分の生き方について考えを深める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パヤタス地域を15年間支援し続けている「ソルトパヤタス」（小川さん）の活動の様子やその思いについて知る。</li> <li>2. JICAのパンフレットを通して、国際協力について知るとともに、各地で活躍している青年海外協力隊員のことを知る。</li> <li>3. 毛糸を用いたアクティビティを通して、国際社会における「つながり」や「助け合い」の必要性を体感する。</li> <li>4. みんなが笑顔で過ごすために大切なことについて考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR</li> <li>・写真</li> <li>・JICAのパンフレット</li> <li>・毛糸</li> </ul>

## カリキュラム

### 【第1時】

1. 子どもたちが好きな遊び（じゃんけん、シーパ）や具体物（楽器、ヤシの実の殻、ココナッツジャム、うちわ、お金）を導入に用いたことで、子どもたちは、どこの国の遊びや物なのか、興味・関心をもつことができました。
2. フィリピンについて知っていることを話し合うと、真っ先に「バナナ」という声が上がりました。その後、実際に、フィリピン産のシールが貼られてあるバナナやフィリピン国内で走る日本製の車の写真を見せることで、日本とのつながりを感じるようになりました。

3. クイズ形式で、日本からの距離、人口、気候、食事、言語等についての知識を伝えることで、子どもたちは、より興味をもって話を聞くことができました。

言語を紹介する際は、「ちょっとタガログ語講座」ということで、タガログ語で書かれたラベルのついたペットボトルを3本用意し、どれが安全な水か当てるようにしました。そして、中身が何か分からない飲み物を飲む時の気持ちを話し合いました。(子どもの反応：どれが安全なのか分からない。毒だったら死んでしまう。怖い。) これにより、文字が読めないこと、学校に行けないことの危険性と未来に及ぼす影響を感じることができ、次時の布石となりました。

4. 街中や市場、小学校の様子を示す際は、子どもたちが関心をもてるように、バスケットコートや分数の掲示、「ドレミの歌」を歌っているVTR等、共通性があるものを中心に選んだ。そして、見る際は、相違点だけでなく、共通点も5つ以上見つけるようにした。そうすることで、外見だけでなく、表情から読み取れる内面にも目が向けられた。また、共通点を知ること、身近に感じることができた。

#### <子どもの反応>

共 通 点	相 違 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数・学習内容 (分数、わり算、かけ算、音楽)</li> <li>・ドレミの歌・運動場・バスケットゴール</li> <li>・教室・黒板・チョーク・鉛筆</li> <li>・明るい・笑顔・仲良し・優しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉・文字・肌の色・気候</li> <li>・制服・名札・教室の数・楽器・天井の扇風機</li> <li>・机・椅子・かばん・土足</li> <li>・時間割 (2部制)・1クラスの人数</li> </ul>

#### <子どもたちの感想>

・日本と同じところや違うところを知って、びっくりしました。知れてよかったです。最初、世界に興味になかったけれど、分かってくると、とても楽しくなりました。これから、もっと詳しく知りたいし、外国の人たちとも交流したいなと思いました。

#### 【朝の読み聞かせ】

パヤタスのゴミ捨て場が舞台の絵本「神の子たち パヤタスに吹く風」(葉祥明著、中央法規、2000年)を読むことで、次時の布石とすることができました。

#### 【第2～3時】

1. フォトランゲージを行う際に、背景を隠して何をしているのかを考えさせました。これにより、写真をより細かく見たり、全景を見た時の衝撃を大きくしたりすることができました。子どもたちの興味・関心を引き出すことができました。
2. 予想の発表後、背景付きの写真を示し、スモーカーマウンテンのことや、2人の生活の様子、働く理由、思い(大切なものや夢)を伝えました。



2人の労働時間や1時間に洗うペットボトルの量については、実際の量を視覚的に示しました。このことにより、子どもたちは、社会科見学で清掃工場に行った時のにおいを想起したり、2人の大変さと頑張りを想像したりすることができました。





ジョーベン君 (11才)  
大切なもの：  
勉強 (学校)  
夢：警察官



ホセ君 (16才)  
大切なもの：家族  
夢：忘れた。  
(妹たちが学校に行くために必死。)

子どもたちは、同世代の子どもたちが働いていることに驚くとともに、生活背景を知って、制度上、経済上、自分たちが恵まれた環境にいるということに気づくことができました。また、2人の大切なものや夢、それに対する思いを知る中で、子どもたちは「貧しいからかわいそう」ということに留まらず、心の面の温かさと強さに気付くことができました。

3. 子どもたちは、ジョーベン君やホセ君との共通点・相違点をすぐに見つけました。(下表)

共通点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢をもっている</li> <li>・夢に向かって努力している</li> <li>・優しい</li> <li>・人のために働く</li> <li>・家族がいて、家族を大切にしている</li> <li>・きつくても一生懸命諦めずに頑張っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中にごみの山がある</li> <li>・働いている (お手伝いではない)</li> <li>・年上だけど、学年が違う</li> <li>・学校に行く日と行かない日がある</li> <li>・家族への思いが強く、支え合って生きている</li> <li>・生きていくために、いつも本気</li> </ul>

そして、「家族への思いや頑張っている部分は同じだけど、自分たちよりもその思いが強いから違う。」と発言するなど、「今」を一生懸命生きている2人の生き方に気付くことができました。

大切なもの	ゆめ
1. 家族	1. 海外で働くこと
2. 勉強	2. 医者
3. 神様	3. けいさつ官
	4. 卒業すること

また、パヤタス小学校の子どもたちの大切なものや夢についても伝えました。子どもたちの予想と違う内容や理由に驚くとともに、パヤタスの子どもたちの家族に対する思いなど、内面の美しさにさらに気付くことができました。そして、彼らとの出会いを通して、自分の生き方を見つめ直すことができました。

4. 大切なものは、モールを使って視覚的に表しました。子どもたちの作品や振り返りには、身近な平和から国際平和まで、様々な思いが表れており、2人との出会いを通して、価値観や生き方を見つめ直したことが伝わってきました。



優しさや協力で、人がつながること  
未来の夢に向かって、一歩ずつ登っていくこと  
一生懸命チャレンジして、命を輝かせること



家族の  
つながり



優しい言動で、みんなが笑顔になること  
優しさがダイヤのようにキラキラ輝くこと  
一人一人のよさがキラキラ輝くこと。



無限の平和  
優しい心  
自由、明るさ



地球の自然  
困っている人に手助けをすること  
みんなが太陽のようにキラキラ輝くこと



ほっとする  
家族のような  
4年2組



### <子どもたちの感想>

- ・ ジョーベン君とホセ君は、私たちと同じように夢や大切なものをもっていました。でも、同じように家族が大切でも、その思いが自分たちよりも強いからすごいと思いました。私も、家族のために、いいことをたくさんしたいです。ちゃんと勉強をして、夢に向かって一生懸命進んでいきたいです。夢や未来のために努力して、一生懸命生きている姿が心に響きました。
- ・ 自分たちにとって当たり前のことが、必ずしも当たり前ではないことを知り、私たちは少し贅沢をしているなと思いました。今の生活にもっと感謝しなきゃいけないと思いました。笑顔がいっぱいの街をつくって、みんなで幸せに過ごしたいです。
- ・ 私は、毎日学校に行って勉強をしたり、何事もなく家族と一緒に家で暮らし、ご飯を食べたりすることができるのは幸せだな、と思いました。私は、今日の学習を通して、思いやりの心の大切さを感じました。私は、もっと困っている人を助けたいです。私も、2人のように、もっと、自分や周りの人を大切に、できることをしっかりとやりたいです。

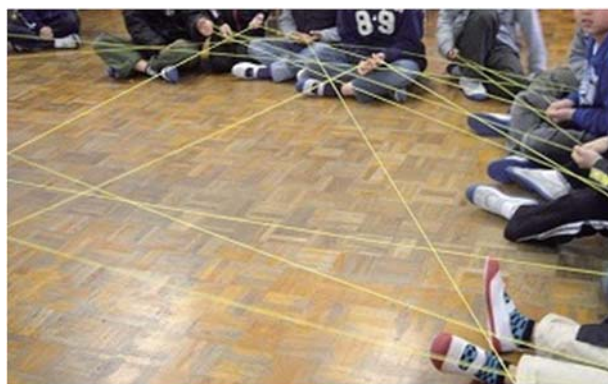
### 【第4時】

1. パヤタス地域を15年間支援し続けている「ソルトパヤタス」(小川さん)の活動の様子やその思いについて、具体物(タオル)や写真、VTRを通して伝えた。多くの子どもたちが、小川さんの生き方やソルトパヤタスのみなさんの努力している姿に、心を動かされました。
2. JICAのパンフレットを通して、国際協力について知るとともに、各地で活躍している青年海外協力隊員のことを写真を通して伝えました。子どもたちは、日本がいろいろな形で国際協力をしていること、様々なボランティア活動があることを知ることができました。

### <子どもたちの感想>

- ・ 小川さんは仲間と一緒に、自分の夢に向かって歩んでいるので、とてもすごいと思いました。私も、小川さんたちのように、夢に向かって、一步一步、一生懸命努力していきたいです。
- ・ 小川さんは、とても優しいし、強いな、と思いました。小川さんみたいに、いろいろな人を大切に、支えていきたいです。
- ・ 多くの日本人がフィリピンのために働いていることを知ってびっくりしました。まずは、ペットボトルのキャップ集めなど、小さなボランティアから始めて、大きなボランティアにつなげていきたいです。そして、多くの人を助け、地球のみんながつながれる世界、みんなが笑顔で楽しく、優しい気持ちで過ごせるような世界をつくりたいです。

3. 輪になり、1本の毛糸を一人、また一人…とつないでいきました。そして、人と人、国と国がつながるといことはどういうことかを考えました。また、わざと、短めの毛糸にして、つながっていない人はどんな気持ちか、どうしたらつながれるかを考えました。さらに、全員がつながった後、はさみで毛糸を切り、切れたらどんな気持ちになるか、どうしたらいいかを考えました。



その後の振り返りでは、子どもたちは、次のような感想を抱いていました。

- ・思いやりをもって優しい言葉をかけ、助け合えば、人と人（国と国）はつながれると思う。
- ・毛糸を持っていない人がいた時、全員が一歩づき、お互いの距離を縮めたように、困っている人（国）はいないか、よく見て、みんなで手を差し伸べ、歩み寄ることが大切だと思う。
- ・切れた瞬間、友達を失ったみたいで、すごく悲しかった。それに、切れた部分から遠くにいても、一瞬、後ろに下がり、影響を感じた。みんながずっとつながっているために、お互いのことをよく知って仲良くしたり、声をかけ合って協力したりすることが大切だと思った。

このアクティビティを通して、「つながり」や「助け合うこと」の必要性を体感するとともに、その大切さに気付くことができた。その後、この毛糸は一つにつないでまとめ、笑顔のカードを貼って教室に置いています。これを見ることで、この時の感覚を思い出し、具体的な行動へと移してほしいと思います。



## 成果と課題

### 【成果】

#### ○ 子どもの変容

日常から、時事問題等に合わせて外国の話をしていたことから、世界に興味を示す子どもたちはいたが、本実践を通して、より世界への関心を高めることができました。また、国際協力をしている日本人のことを知ったということもあって、日本の対するイメージがよくなりました。

日本とフィリピンの比較を通して、世の中には貧富の差があることを知るとともに、自分たちの生活が経済的・制度的に恵まれていること、当たり前に行っていること（学校に行く、食べる、寝る、ゲームで遊ぶ等）が実は有り難いということに気付くことができました。また、共通点や尊敬できる場所を知った子どもたちは、

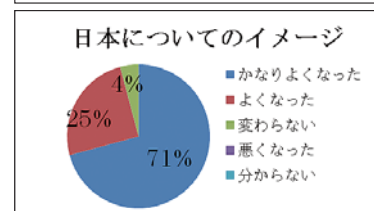
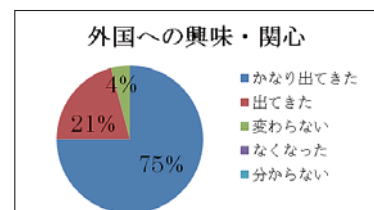
「貧しい＝不幸」ではないということに気付くことができました。そして、「今」を一生懸命生きている同世代のジョーベン君やホセ君、同じ日本人の小川さんたちとの出会いを通して、自分の生き方を見つめ直すことができました。

学習後、「世界中を回り、困っている人を助け、笑顔にしたい。」「世界中の自然を守る大人になりたい。」「世界中を回り、いろいろな国の人と触れ合ってみたい。」という夢を抱き、保護者に語る子どもがいました。そして、「自分の大切なものを大事にできるように、行動に移したい。」「夢に向かって、一生懸命努力したい。」、と思いを深めていました。本学習を通して、子どもたちは、世界への興味を一層深めるとともに、国際協力に関心をもち始めたことが分かりました。

子どもたちの未来は無限の可能性に開かれています。子どもたちの人生の選択肢を増やしてあげる大人の責任は大きいと感じました。

#### ○ 興味・関心を抱かせるための工夫

夏休み明けに、笑顔のフィリピン人の写真を見せて、素敵な出会いがあったことを話したり、



教師の名札にフィリピンの通貨を「大切な宝物」として入れて目に触れさせたりしました。また、学習発表会でポディーパークッションに取り組んだ際には、フィリピンの子どもたちがリズム学習をしているVTRを見せて、親近感を抱けるようにしました。このような布石を打つことにより、子どもたちの本時への興味・関心を高めることができました。

そして、授業で用いた教材等は、教室や廊下にフィリピンコーナーを作り、掲示することで、授業で感じたことを思い出すとともに、他の学級の子どもたちもフィリピンのことに触れることができるようにしました。休み時間に眺めては、次々に質問したり、「今日の総合もフィリピン？」と嬉しそうに尋ねたりしてくる子どもたちの姿から、大きな関心をもって学習に取り組んでいることが伝わってきました。

また、クイズ形式でフィリピンを紹介したり、写真をパワーポイントを使って効果的に示したりしたことは、子どもたちにより興味を抱かせる上で効果的でした。



#### ○ フィリピンを身近に感じる指導方法の工夫

同世代の子どもたちや日本と同じような写真、現地の物を見せたことは、フィリピンへの関心を高めるだけでなく、身近に感じたり、理解したりする上で有効でした。また、相違点よりも共通点に重点を置くことで、より身近に感じるとともに、自分の生き方を見つめ直すなど、学習に深まりが見られました。さらに、同世代の2人の男の子（ジョーベン君とホセ君）の生き方については、フォトランゲージの手法をアレンジして、じっくり考えるようにしたり、名前を出したり、夢などを視覚的に示したりしたことで、より一層、子どもたちの心を揺さぶることができました。

#### ○ 自己を振り返るための工夫

共通点をもった人との出会いや様々なアクティビティ（体験）を取り入れたことは、フィリピンや国際協力について理解し、身近に感じたり、自己を振り返ったりする上で、大変効果がありました。そして、自分の生き方をじっくり振り返り、思いをモールドで表す活動は、見えない思いを具体的に膨らませる、いつも視覚的に確認できるという点で、効果がありました。

### 【課題】

#### ○ 年間指導計画の見直しと国際理解教育の推進

本研修での多くの人・もの・こととの出会いを通して、私自身、たくさんものを得ることができました。そして、子どもたちに伝えたいことはたくさんありました。しかし、4年生という発達段階では、国際協力や政界情勢を十分理解することは難しい。そこで、今回は、フィリピンとの出会いを通して、「自分の生き方を見つめる」ということに焦点をあてました。

今回は、子どもたちが、フィリピンのことについて、自ら課題を見つけ、追究する活動を時数の関係上、十分取り入れることができませんでした。また、地元にあるJICA九州の人たちとの連携を図ることができませんでした。GTとの出会いは、子どもたちにとって、大変効果がありました。



今後は、開発教育の実践の在り方について研鑽を深めるとともに、年間指導計画の見直し・作成を行い、系統的に開発教育を進めていきたいと思ひます。そして、同じ地球に住む人々と共によりよく生きていこうとする子どもたちを育てていきたいと思ひます。

今回、JICAの皆さまをはじめ、多くの方から貴重なことを学ばせていただいたことに、心より感謝します。ありがとうございました。

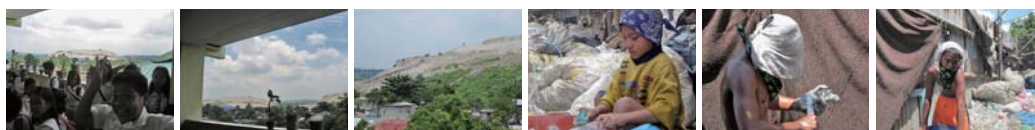
## 参考資料・教材など

- ・ ドキュメンタリーフィルム「神の子たち」
- ・ 「新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」開発教育協会、2003年
- ・ 「17才で小学校を卒業したロウェナ」木下健、草土文化、1997年
- ・ 「ゴミと宝石」上田敏博、第三書館、1993年
- ・ 「神の子たち パヤタスに吹く風」葉祥明、中央法規、2000年
- ・ 「フィリピンと出会おう」ピナツボ復興むさしのネット、国土社、2002年
- ・ 「どうなってるの？世界と日本」(JICAパンフレット)
- ・ H22年度教師海外研修参加者撮影の写真

### 【第1時】



### 【第2～3時】



### 【第4時】



# 世界を知ろう 自分を見つめよう

山尾 智子

YAMAOKI TOMKO

福岡県飯塚市立庄内中学校

担当教科：英語科

●実践教科： 道徳の時間、学級活動の時間  
総合的な学習の時間

●時間数： 各クラス3時間

●対象学年： 2年生3クラス

●対象人数： 27名

## カリキュラム

### ■実践の目的

- 国際協力の視点から、世界の国々で働いたり活動していたりする日本人を知る。

芸能・文化・スポーツなどの様々な分野で国内外を問わずに活躍する日本人がいます。この実践を通して、華々しい世界で活躍している日本人だけではなく、ボランティアやNGO/NPOの一員として、世界各国で活躍している日本人の姿を生徒に伝えたいと考えています。フィリピンの各都市で活動している青年海外協力隊メンバーの活動内容や思いを紹介していきます。

- 世界が抱える問題に目を向け、その解決に向けて具体的に考え行動する力を育てる。

恵まれた環境で生活していることに改めて気づかせて、日本が単独でこの豊かさを手にいれることができているのではなく、世界各国とのつながりの中で生かされていることを教えたいと思います。

また、最貧国の1つとしてフィリピンという国を通して、世界（日本）の貧困問題と自分たちの生活が無関係ではないことを知り、貧困問題の解決に向けて主体的に考える態度を育てていきます。

- 日本人としての誇りと自覚をもつ生徒を育てる。

- 自分の生き方に自信をもち、他の人の生き方にも目を向け共感することのできる生徒を育てる。

日本国内は長く続く不景気、混迷する政治経済で社会全体に閉塞感や疲弊感が漂い、子どもたちの周りには就職超氷河期時代、凶悪犯罪の数々などの暗いニュースが溢れています。大人でさえも「日本の良さは？」「日本で誇りに思うことは？」と聞かれて、答えに窮します。世界各国で働くJICA関係者や、フィリピンの子どもたちの安心・安全な生活のために活動するソルト・パヤタスの方々の姿を伝え、世界の恒久平和のためにがんばっている日本人の存在を知ってほしいと思います。「国際協力」という面で活躍している人々が同じ日本人でたくさんいることを誇りに思い、自分の将来の夢を見つけたり実現したりするきっかけを得ることができるような授業展開を心掛けたと思います。

## ■ 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法（学習形態）	使用教材
<p><b>【1時限】</b>  <b>テーマ：</b>            世界で活躍する日本人  <b>ねらい：</b>            青年海外協力隊としてフィリピンで活動する人々を紹介し、国際協力の視点から世界の国々で働いている人の生き方を知る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「世界で活躍する日本人」と聞いて思いつく人を考える。（個人）</li> <li>② ①についてグループで共通する人物を挙げて、全体に発表する。（グループ全体）</li> <li>③ フィリピンで活動している青年海外協力隊の2人とソルト・パヤタスのスタッフ写真を見て、どのような分野で「活躍している日本人」なのかを想像してみる。（個人）</li> <li>④ ③についてグループごとに意見を集約する。（グループ）</li> <li>⑤ ④でシェアした内容をグループの代表が発表する。（全体）</li> <li>⑥ 写真に写った青年海外協力隊の2人とソルト・パヤタスの活動について教師の説明を聞く。</li> <li>⑦ 教師の説明を聞いての感想や疑問に思ったことなどをワークシートに記入する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 青年海外協力隊員の写真</li> <li>✓ ワークシート</li> </ul>
<p><b>【2時限】</b>  <b>テーマ：</b>            フィリピンの子どもたち  <b>ねらい：</b>            パヤタス地区の子どもたちの姿をとおして、フィリピンが抱える問題を知る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① スカベンジャーとして働く子どもの写真から、彼の生活状況を考える。（グループ）</li> <li>② 写真の少年について説明する。（以下、すべて全体）</li> <li>③ パヤタス地区の写真を見て、地区全体の生活を知る。</li> <li>④ 感想や質問をワークシートに書く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 写真（ゴミ回収業者で子ども、ゴミ山、ソルト・パヤタスのスタッフ）</li> </ul>
<p><b>【3時限】</b>  <b>テーマ：</b>            わたしの生き方  <b>ねらい：</b>            ソルト・パヤタスの活動の紹介と、代表の小川恵美子さんの姿を通して学び、自分自身の生き方を振り返り、他の人の生き方に共感する態度を育てる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分の「夢」や「大切にしたい生き方」をワークシートに書いて、1人1人発表する。</li> <li>② メトロマニラとパヤタスの写真を見て、大都市と貧困層の人々が暮らす地区の差を知る。</li> <li>③ ソルト・パヤタスの活動や支援を受ける子どもの写真を見る。</li> <li>④ 小川恵美子さんを紹介した新聞記事を読む。</li> <li>⑤ 授業の感想や質問をワークシートに記入する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 写真</li> <li>✓ お土産で買ったうちわ</li> <li>✓ ソルト・パヤタスの商品</li> <li>✓ 朝日新聞 2010.10.31 いまひと Fukuoka 欄より</li> </ul>



## 授業の詳細

### 【1 時限】

「テーマ」 世界で活躍する日本人

「ねらい」 青年海外協力隊としてフィリピンで活動する人々を紹介し、国際協力の視点から世界の国々で働いている人の生き方を知る。

「授業の展開」

① 「世界で活躍する日本人」と聞いて思いつく人を考える。(個人)

② ①について、意見を集約してグループごとに発表する。(グループ&全体)

「イチロー」「松井秀喜」(野球選手)「本田圭佑」(サッカー選手)「スーパードクターの〇〇さん」(医師)など、テレビやニュースで見聞きする名前が次々と挙がりました。

③ フィリピンで活動している青年海外協力隊の2人とソルト・パヤタスのスタッフの写真を見て、どのような分野で活躍している日本人なのかを想像してみる。(個人)

プレゼンテーションソフトを使いスクリーンに大きく《写真1、2、3》を映し出し、「この人たちも世界で活躍する日本人です。」と紹介しました。予想していた有名人は出てこなかったので、不思議そうな顔をしている生徒もいたが、興味深そうに見入っていました。

④ ③についてグループごとに意見を集約する。(グループ)

「どんな分野でどんな活躍をしている人たちでしょう?」と質問しました。写真に写っている情報だけではよくわからないという意見もありました。服装や建物などの細かなところにもヒントがあるのではないかと、一生懸命に考えていました。

⑤ ④でシェアした内容を全体に発表する。(全体)

「通訳」「自動車整備士」「何かを教えている人」「日本語の先生」などの意見がでました。

⑥ 写真に写った青年海外協力隊とソルト・パヤタスについて教師の説明を聞く。

JICA や JOCV の活動について補足説明をしました。

⑦ 教師の説明を聞いての感想や疑問に思ったことなどをワークシートに記入する。

日本での仕事を辞めてまで海外でボランティアとして働くことにどうしても納得がいかない、理解ができないという生徒もいたが、世界のために自分ができることを一生懸命にやっているという点では、どの生徒にとっても新鮮で刺激のある話だったようでした。

自分の持っている知識を海外に行き教える事は、  
すごく勇気のいる事だし、自分をきせいにしてまでも、ボラ  
ンティアという形で行く事は、すごい事だと思います。  
こういうボランティアをする人が多くなると、平和な世界に  
少しは近づくだろうし、人として成長できて、これからの日本  
社会に、こうけんできて、と思います。

3 今日、この授業を受けて私が知らない所で活  
躍している人を知ることができてよかったと思  
います。仕事をあるという事は、お金だけでなく  
て、人のためにあるんだと改めて思いました。  
ボランティアとしていることがとても尊敬できます。

## 【2時限】

「テーマ」 フィリピンの子どもたち

「ねらい」 パヤタス地区の子どもたちの姿をとおして、フィリピンが抱える問題を知る。

「授業の展開」

### ① スカベンジャーとして働く子どもの写真から、彼の生活状況を考える。

《写真4》の左半分を切り取ったものを見せて、限られた情報の中から、この少年が何をしているのかを考えさせました。下の写真のようにグループごとに写真を配り考えさせて意見を引き出しました。多くのグループが、ペットボトルをリサイクルするために洗っていると話し合っていました。



### ② 写真の少年について説明する。

《写真4》の残りの右半分を配布して組み合わせて答え合わせをしました。自分たちの予想どおりだったと喜ぶ生徒もいたが、この写真が撮られた時の時刻、気温、湿度などから、いかに過酷な状況なのかを正しく伝えました。ゴミを洗っているという点では多くの班が正解だったが、この少年が仕事としてペットボトルを洗っているとは考えもしなかったようでした。

### ③ パヤタス地区の写真を見て、地区全体の生活を知る。

マニラの空港で買った50ペソのうちわ、ソルト・パヤタスの製品を見せ、子どもが1日8時間働いて得るお金が、どれくらいの価値があるのかを考えさせました。

また、《写真5》を見せて、同じ日の同じ場所で制服を着て学校に通っている生徒がいることも教えて、学校が2部制であることや、昼食代がないと学校に行かずに働くと言っていた子どもがいたことも伝えました。中学生と年齢に近い少年の話なので、静かに真剣に話を聞いていました。

### ④ 授業の感想や質問をワークシートに記入する。

今日の授業で私たちが遊んでいたり、授業を受けていたりしている間に、一生懸命働いているんだなと思いました。かわいそうと思っていたら、それは、自分たちが愚昧すぎたから、この生活をあたりまえのように過ごしているから、思うんだというのを教わりました。授業が嫌だということもあるけどあんな子たちもいるんなら、頑張ろうと思いました。

私たちは、当然ながら学校に通える環境にいるから、当然前に学校に通って、生活に不自由がなく生活できているけど、世界には、他にも、学校にもいけない子がいるというのを知り、とても、悲しいと思いました。私たちは、自分で働かなくても、ご飯は食べられ、洋服もいい物を着て、とてもいい環境だと思いました。私たちが、今日勉強した子たちの事をかみそうと思うのは、先生も言っていたけど、私たちが、当然前にこういう生活がとまっているんだと思います。だから、私たちがちゃんと今やる事をしたいと思いたったと思いました。

### 【3 時限】

「テーマ」 わたしの生き方

「ねらい」 ソルト・パヤタスの活動の紹介と、代表の小川恵美子さんの姿を通して学び、自分自身の生き方を振り返り、他の人の生き方に共感する態度を育てる。

「授業の展開」

① 自分の「夢」や「大切にしたい生き方」をワークシートに書いて、1人1人発表する。

これまでの道徳の授業で「自分の意見をしっかり持つこと」「他の人の意見を批判・否定しないこと」を約束としてきており、守ることができていました。

スポーツ選手になりたい、家族や友だちを大切にしていきたい、芸能人に会いたい、お金持ちになりたいなど、自分が「したい」「なりたい」ものを語る生徒が多かったです。

② メトロマニラとパヤタスの写真を見て、大都市と貧困層の人々が暮らす地区の差を知る。

高層階（JICA フィリピン事務所）から撮ったメトロマニラ中心部（写真6）と車で1時間ほどの距離にあるパヤタス地区（写真7）を対比させることでフィリピン国内の経済格差が少しは分かったようでした。今回のスタディツアーが、そういった貧富の差を体験して教師自身が学ぶことが目的だったということも簡単に説明をしました。

マニラ空港の売店で買った50ペソのうちわとソルト・パヤタスの支援プログラムで政策しているハンドタオルの値段と、前回の学習で紹介したゴミ回収業者で働く子どもの1日当たりの賃金を比較させてみました。

③ ソルト・パヤタスの活動や支援を受ける子どもの写真を見る。

ソルト・パヤタスの子ども支援センターで allowance（教育のための支援金・手当）を受け取る様子（写真8）と支援を受けている子どものお母さんたちの仕事場で写した写真（写真9）を見せて、ソルト・パヤタスの活動について説明しました。

④ 小川恵美子さんを紹介した新聞記事を読む。

小川さんのことを取り上げた新聞記事を資料として配布して範読しました。新聞記事と併せて、小川さんと直接会って話したことを生徒に伝えることができ、新聞記事にはない小川さんの考えも語ることができました。写真は新聞記事を紹介しているところで、全員に記事のコピーを配って分からない言葉や疑問に思ったことを挙げさせて、丁寧に読み進めました。



⑤ 授業の感想や質問をワークシートに記入する。

小川さんは、あげわざ<sup>あがわざ</sup>この場所に行き、その人たちの  
の助けをするのはすごいなと思います。  
してあげるのではなく、させてもらおうという考え方に  
この人のすごさがあると思いました。



フィリピンとかどうゆう貧しい暮らしをしている人に、ものをあげればいいのかという考えでした。  
でも、あげたところで、その人たちがそのつくり方をしらないので困るだけであって何も意味がなかったと思います。  
この学習に関係ないかもしれないけど、「物をあげる」ではなく「つくり方を教える」ことが大切だと思います。

小川恵美子さんは、誰かに言われてとか「俺、とかそういうのではなく自分の生き方をもっと大事にしていこうんだなあと思いました。自分の意志をもたなければいい人だと思えます。私も将来は小川さんのような人のために一生懸命がんばれる大人になりたいです。でも本当に小川さんのような人になれる強い意志を私はあるのかまだ分かりません。

### 成果と課題（○成果 △課題 ☆来年度へ向けて）

- 生徒が「外国」と聞いて思い浮かべるのは、日本人が活躍している国や海外旅行で人気がある国が多い。普段の授業では、生徒がフィリピンについて深く学ぶことはほとんどありません。これからフィリピンと日本の人材交流がますます盛んになるのが予想され、今までは近くて遠い隣国だったフィリピンに出会わせるきっかけ作りができて良かったと思います。
- 「良い人生」「幸せな人生」とは何か、中学生のこの時期に考えることはとても意義深い。自分たちが考える「良い人生」「幸せな人生」が絶対的なものではなく、見方を変えるとことも必要という意識を芽生えさせることができたと思います。
- 青年海外協力隊の皆さんをはじめフィリピンで出会った日本人を紹介することで、「人の役に立つような仕事をしたい。」「海外で自分の特技を活かして働いてみたい・活躍してみたい。」と考える生徒がでてきたので、実践のねらいを達成できたと思います。
- △ 自分たちがいかに恵まれた環境で生活しているか実感させることはできたが、「日本に生まれて良かった。」という考えの生徒もいました。フィリピンの現状を伝えることはできたが、そこに生活する人々の思いや考えにじっくりと迫るには、授業時間が足りませんでした。
- △ 3クラス別々に同じ授業を3回したので、合計9時間を確保するのがギリギリで、私が見聞きしたことを紹介するだけに終わってしまいました。世界が抱える課題の解決について視野を向けさせたり、課題解決のために具体的な行動を考えさせるまでに至らなかったのが残念です。
- ☆ 来年度は出前講座やJOCVのOB・OGから直接話を聞く機会を設けたいと思います。
- ☆ 世界が抱える諸問題の解決のためのアクションプランを考えるワークショップ形式の授業をしたり、中学生でもできる国際協力を具体的に実践させたり、フィリピンを軸とした国際理解教育を継続していきたいと思います。
- ☆ この研修の参加者と授業実践を交流していきたいと思います。



参考資料・教材など

【1時限】

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



